

第2回 ふれあい自然観察会

「冬鳥を探して散策しよう」～金光院周辺の歴史と自然～

木下順次(千葉市)

日 時: 2020年12月12日(土)9時～12時

天 候: 曇のち晴

参加者: 大人4名 子ども2名

担当指導員: 岡田敬子・木下順次・芳我めぐみ・和仁道大・伊藤道男(事務局:運営)

薄日のさす冬の朝で肌寒くはありましたが、風はなく野鳥観察日和でした。本日の観察会は、地域の史跡や歴史にふれたり、冬鳥を探しながら、金光院の谷津田周辺を散策するというもの。印旛沼に続く鹿島川の水系につながる谷津田の一つです。近隣の大草谷津田に比べても谷津田が大きく、広く開けています。御茶屋御殿跡～金光院～金光院谷津田とめぐりながら進みました。

《御茶屋御殿跡～金光院》

船橋から東金に続く御成街道脇に残る御茶屋御殿は江戸時代徳川将軍が鷹狩りに向かう途中のお休みどころです。いまでは跡地のみで建物は残っていませんが、千葉市教育委員会のSさんからお聞きした、設営のいきさつや当時の様子などを重ね合わせると、何も無い広場や空堀にも当時の姿を思い描くことができるような気がしました。また、ひっそりとたたずむ真言宗豊山派の名利である金光院では、家康由来の「御手掛の桜」や、様々な樹の苗床のようになったホオノキの古木などを観察しました。

《金光院谷津田》

金光院谷津田では、斜面林の林縁で多くの樹木や野草が観察され、野鳥の観察とともにその餌となるサルトリイバラ、シロダモ、ムクノキなどの実について解説しながら、道中に現れる野鳥を観察しながらゆっくりと進みました。



冬鳥についてはコゲラやシジュウカラなど山野の鳥を中心に多くの冬鳥が観察できました。オオタカラしき姿やマヒワの群れを観察できたことが今回の観察会のハイライトとなりました。

ビオトープとして整備された小川や止水域では、ボランティアグループのOさんから整備活動の経緯や苦労談を伺った。その中でニホンアカガエル、ヘイケボタルなどは、環境整備(ビオトープ整備)に伴って数が大幅に増加したとのお話が印象的でした。

《本日観察した野鳥》

(植物) ハナミズキ サルトリイバラ マユミ カキ ガマズミ ムクノキ シロダモ チャノキ アオキ ノイバラ トキリマメ

※鳥が食べて種子散布するものを中心に観察しました。

(野鳥) コゲラ メジロ ハシボソガラス ハシブトガラス セグロセキレイ ハクセキレイズメ ツグミ シメ ヒヨドリ

アオジ(C) ウグイス(C) ムクドリ シジュウカラ(C) モズ(ウグイスの鳴きまね?) タカ類(オオタカ?)

マヒワ(群) 計17種 ※(C)は鳴き声のみ